

集団宿泊学習における思考力・判断力・表現力の育成～タブレットPCの活用～

大澤 秀行*¹ 松井 徹*² 西野 美佳*³ 藤井 祐矢*⁴ 大竹 秀典*⁵ 加藤 直樹*⁶ 今井 亜湖*⁷

＜概要＞第6学年宿泊学習の事前学習、当日の学習、事後学習において、タブレットPCの各種ツールを活用していくことが思考力・判断力・表現力を育成することに繋がるのかを検証した。その結果、タブレットPCのカメラ・インターネット・地図（GPS）・TV電話・プレゼンテーションツールを活用することは、思考力・判断力・表現力を育んでいく上で有効であった。

＜キーワード＞宿泊学習、タブレットPC、思考力・判断力・表現力の育成

1. はじめに

平成23年度実施の学習指導要領^[1]では、各教科等での積極的なICT活用について記されている。これまでに各教科でのタブレットPCを活用した実践報告は多く見られる。しかし、特別活動における実践報告は少ない。

また、平成20年の中央教育審議会答申^[2]においては、思考力・判断力・表現力等の育成と言語能力の充実があげられている。

これらのことから、本研究では、特別活動における集団宿泊の行事において、タブレットPCの導入により、子供たちの思考力・判断力・表現力を育成することができるのではないかと考え、宿泊学習（事前・事後指導を含む）における児童のタブレットPCの活用を教師が見取ることで、児童を対象としたタブレットPCの活用に関するアンケート調査の結果より検証することにした。

2. 対象宿泊学習とタブレットPCの導入

(1) 対象宿泊学習

期 日：平成26年5月14日～5月16日（金）

対 象：第6学年宿泊学習（2泊3日）

「名称：京都・奈良発見の旅」

参加人数：通常学級119人、特別支援学級3人、
引率者8人、添乗員1人 計131人

(2) 学習時のタブレットPCの使用方法

①事前学習においてタブレットPCを1人1台渡し、調べ学習を行えるようにする。

②当日の班行動においてタブレットPCを班に1台渡し、カメラ・インターネット・地図（GPS）

・TV電話ツールの使用を許可し、班別研修を行えるようにする。

③事後のプレゼンテーション作成時に班に1台のタブレットPCを渡し、プレゼンテーションツールを使用して作成、発表できるようにする。

3. 実践と教師の見取りからの考察

(1) 事前学習におけるタブレットPCの活用

児童1人につき1台のタブレットPCを使い、そのインターネットツールを使用して調べ学習を行った。児童は調べたページをカメラツールを利用して撮影し保存した。そして、保存したページを見ながら新聞にまとめていった。

調べ学習にこれらのツールを利用したことで、調べ学習における調査の効率性が上がり、新聞にまとめる時間の確保ができた。また、これにより、児童は新聞に何をどのように書いていくのかを十分に思考・判断し、表現していくことができたのではないかと考える。

(2) 宿泊学習におけるタブレットPCの活用

① カメラツールの活用

宿泊学習の3日間では、児童はカメラツールを利用して、グループの思い出作りを行うことに加え、研修テーマに合わせた写真を撮影した。さらに、外国語活動で学んだことを生かして、外国の方と話をする姿を動画で撮影した。

カメラツールの活用は、これまでの宿泊学習で使用してきたインスタントカメラ使用時の問題点である、(1)上手く撮れたかをその場で確認できない、(2)削除ができない、(3)ズームがで

*¹OHSAWA,Hideyuki：岐阜大学教育学部附属小学校（〒500-8482 岐阜県岐阜市加納大手町74）

*²MATUI,Toru：岐阜大学教育学部附属小学校（〒500-8482 岐阜県岐阜市加納大手町74）

*³NISHINO,Mika：岐阜大学教育学部附属小学校（〒500-8482 岐阜県岐阜市加納大手町74）

*⁴FUJII,Yuya：岐阜大学教育学部附属小学校（〒500-8482 岐阜県岐阜市加納大手町74）

*⁵OTAKE,Hidenori：岐阜大学教育学部附属小学校（〒500-8482 岐阜県岐阜市加納大手町74）

*⁶KATO,Naoki：岐阜大学総合情報メディアセンター（〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1）

*⁷IMAI,Ako：岐阜大学教育学部（〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1）

い、(4)撮影できる枚数が少ないといった点を解決でき、機能面からみて有効であると考えたからである。実際に、児童は撮った写真や動画の有無をその場で思考・判断したり、どここの場所からどの角度で、どの大ききで撮影すると自分達の研修テーマに合った写真になるのかを考えて撮影したりすることができ、思考力、判断力、表現力を育成していくために有効であったと考えられる。

しかしながら、思い出作りを主として使用する班や、漠然と建造物を撮影する班も見られたことから、研修テーマに合わせて撮影するという意識を事前に強くもたせていくという課題も残った。

② インターネットツールの活用

児童は、研修先において疑問や調べてみたいことが出てくると、インターネットツールを使って調べ学習を行った。

このツールを活用することで、調べたところを注目して見たり、聞いて疑問に思ったところを調べたりすることができ、思考力を育むことができたのではないかと考える。

しかしながら、アンケート調査の結果、インターネットツールを効果的に活用できていない班があることが分かり、事前学習において研修テーマに対する意識(目的意識)をより高め、探究心をもたせていくという課題が明らかになった。

③ 地図(GPS)・TV電話ツールの活用

2日目の京都、奈良の班別行動では、地図ツール(GPSツール)とTV電話ツールを利用した。

GPSツールを活用することは、これまで班別行動の中で挙がっていた問題点である、自分達がどの場所にいるのかが分からなかったり、方角が分からなかったりすることを解決することができたと考えた。また、GPSツールとTV電話ツールの2つのツールがあることで、児童らに困難なことがあったときに、自分達が今置かれている現状は、GPSツールを使ったり、人に聞いたりすれば解決できそうな現状なのか、無料通話ツールを使って先生に助けを求めなければならない状況なのかを思考・判断したり、TV電話でどこを映すと自分達の居場所が分かってもらえるのかを思考・判断したりすることもできると考えた。実際に児童がこれらのツールを使って問題解決を行った事例が観察でき、思考力・判断力の育成という面においても有効であったと考える。

さらには、GPSツールを使うことで、教員のタブレットPC内で、すべてのグループの現在地が分かり、安全・管理という面においても、とても有効であった。

(3) 事後学習におけるタブレットPCの活用

宿泊学習の事後学習では、プレゼンテーションツールを使用して、班ごとに発表資料を作成した。宿泊学習当日に撮影してきた写真の中から必要な写真を選び、資料の中に入れていった。プレゼンテーション資料の作成後、児童は原稿を考え、保護者、5年生に向けてプレゼンテーションを行った。

プレゼンテーションツールを活用することは、これまでの発表でよく見られた紙ベース資料の問題点である、一度作成すると内容や図、表、写真を替えたり、構成を替えたりすることが難しいといった点を解決できると考えた。

実践において、シートの順番を入れ替えること、文字を打ちかえること、大きさを考えること、配置を変えるなど、相手に伝わりやすいプレゼンテーション資料にするにはどうしたらよいかを思考・判断・表現する児童の姿が見られ、アンケート調査の結果においても同様の利点をあげる児童が多く、教育的効果があったと考えられる。

4. 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ・タブレットPCのカメラ・インターネット・地図(GPS)・TV電話・プレゼンテーションツールを活用することは、思考力・判断力・表現力を育てていく上で有効であった。
- ・特にプレゼンテーションツールを活用することは、画像や文字、構成までも簡単に変わることができ、思考力・判断力・表現力を育成していく上で有効であった。

(2) 今後の課題

- ・事前から当日にかけて、研修テーマに対する意識を強くもたせていき、各種ツールをより有効に活用できるようにしていく。

5. 終わりに

本研究では、上記で示したような成果と課題を見出すことができた。今後、これらの成果と課題をもとに実践を重ね、1台のタブレットPCでたくさんの機能を合わせ持っているという点、いろいろな機能を入れていける点など、魅力的なタブレットPCの有効な活用の仕方を探っていきたい。

<参考文献>

- [1] 文部科学省 (2008) 「学習指導要領」
- [2] 文部科学省 (2008) 「中央教育審議会答申」